

特集

駒師として生きる

〜三条市が全国に誇る将棋駒「竹風駒」の歩み〜



筆先に全神経を集中させる駒師の大竹さん

全国でも有数の工業出荷額を誇る三条市。このまちのアイデンティティーである「ものづくり」は、その技術力と品質の高さから、世界中で高い評価を受けている。誰もが認める職人のまち三条市には、全国に誇る将棋駒師がいる。

半世紀に渡り、三条市で将棋駒を作り続けてきた県内唯一の将棋駒師、大竹日出男さんだ。雅号を「二代目大竹竹風」と言い、全国でも数えるほどしかない「盛上駒」を作る駒師の一人。「盛上駒」は、「盛り上げ」と言われる高度な技術で駒の文字を漆で盛り上げたもので、大変希少価値が高く、将棋駒の最高峰として知られている。大竹さんが作る駒は「竹風駒」と呼ばれ、高いものでは百万円の値が付けられるほどの逸品。

最高の駒作りにゴールはない。半生を掛けて築き上げてきた匠の技は、名人の域に達し、駒との対話がさらなる創作意欲をかき立てる。

今回は、駒作りに一生を捧げている一人の職人の姿をクローズアップし、その半生とともに、ものづくりの軌跡をたどる。



文字を漆で書き、駒の文字を立体的に盛り上げる作業

三条市初の竜王戦で「竹風駒」が盤上を飾る。

今年の6月、三条市で初めて将棋の8大タイトル[※]の最高峰と言われる竜王戦が11月23日(木・祝)・24日(金)に、「嵐溪荘」で開催されることが決定した。

今回の対局では、現竜王の渡辺明2冠と挑戦者の羽生善治棋聖による最高峰の戦い、まさに神の一手と呼ばれるにふさわしい対戦が繰り広げられる。

この大会では、対局に欠かすことのできない将棋駒に、大竹さんが作る「竹風駒」が使用される。多くのタイトル戦で使われてきた「竹風駒」。そのルーツと魅力をひも解いていく。

将棋駒師

大竹 日出男 さん

三条市北四日町(73歳)

昭和19年1月、東京都本所横川町(現墨田区)生まれ。

昭和20年3月、東京大空襲に遭い、駒師の父らと共に三条市に疎開する。

三条実業高校を卒業後、東京都の前沢基盤店で修行し、その後、三条市に戻る。漆で書いた駒の文字が立体的に見える「盛り上げ」を得意とし、父の跡を継いで二代目大竹竹風(雅号)を名乗り、「竹風駒」を作り続けている。